

令和6年度
国府中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

生徒が主体的に学ぶ力につながる学力向上を目指して
 ①ICT・タブレットを活用し、基礎基本の定着を図るわかりやすい授業の実践
 ②思考力・判断力・表現力を磨く発問・学習形態の工夫
 ③主体的・対話的で深く学び合う生徒の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長:澤口博之 教頭:吉本真由美 江東克彦
 教務:中山直之 研修主任:和田由佳
 推進委員:西田弥生 小阪昌子 岡本裕志
 教科主任:長谷川愛実 近藤年世 小山祐貴 篠原明子
 多田 真悠

校長

澤口 博之

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す生徒の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に対してまじめに取り組むことができ、全般的に基礎的・基本的な知識や技能を身につけている生徒が多い。 ●自分の意志で学習に取り組む意欲の低い生徒も見られ、学力の二極化傾向が見られる。習得した知識を定着させるまで粘り強く学習に取り組むまでに至っていない。	・集中して授業に取り組む、基礎的内容の課題の達成ができる。 ・身に付けた知識や技能が、ほかの学習や生活の場面において活用することができる。	・教員間で学習規律の共通理解を図り、学習の見通しや振り返りを意識した授業づくりに努める。 ・生徒が興味をもって学習に取り組むことができるよう発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す生徒の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題解決に向けて友達の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりすることができる。 ●書く・話すなどの自己表現活動に対する苦手意識が強い。思考・判断を要する課題に対して、最初から取り組もうとしない生徒が見られる。	・各授業での課題などに対して、「いきいき」とした話し合い活動等を通して、自分の考えや意見を相手にわかるように表現することができる。 ・課題解決に向け最後まで粘り強く取り組み、根拠や理由を明らかにしながら伝え合うことができる。	・ペア学習やグループ学習を適宜設定し、ICT・タブレットやホワイトボードを効果的に活用した発表や話し合い活動を設ける。 ・学んだ知識を活用できるような課題を提示し、その課題解決に向けて筋道を立てて考えを深めたり、話し合ったりする機会を設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す生徒の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○チャイム着席が定着しており、授業に落ち着いて臨むことができる。 ●家庭学習の習慣が定着していない生徒が多い。不得意な教科や課題に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・夢や目標を持ち、その実現に向けて主体的に学習に取り組むことができる。 ・自分なりの学習の仕方を習得し、主体的・計画的に家庭学習を充実させることができる。	・生徒が見通しをもって授業に取り組むことができるよう、授業のめあてを提示する。 ・効果的な発問で授業中に積極的に発表させる機会を増やす。 ・家庭学習に活かせるようなノート指導の工夫や定期テスト計画表の充実を図る。			

令和6年度 学力向上ロードマップ



